

おお大勝利

平成 24 年度山東サッカー部報第 18 号 (9 月 18 日)

サッカー部保護者の皆様、OBの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

Y1 連敗 山形中央には歴史的な大敗

9 月 15 日 (土)、17 日 (月)、3 連休をいかし Y1 の 2 連戦が行われました。山東はモンテ B、上山明新館とともに熾烈な残留争いをしている。正直 1 でも 3 でも、勝ち点が欲しいところ。ちょうど先週地区新人が行われ、同年代相手に粘りのある戦いをして、一定の手応えを得た山東。ただし Y1 は別物。気持ちを引き締め直して 15 日の山形商業戦に臨む。

15 日場所は上山明新館高校。グラウンドの広さは恐らく県内高校 No.1。相手の山形商業は、今期 Y1 にて苦戦しており、15 日を迎える時点で勝ち点 12。対する山東は勝ち点 6 と離れているが、残り 3 節あるので、この直接対決に勝つと逆転の芽が出てくる。逆に負けると勝ち点差 9 となり、自力での逆転が現実的ではない状態になる。要は正念場。試合が始まると、ボールへの寄せが甘く、単純に押し込まれる。そして押し込まれゴール前にくぎ付けになったところで、ペナルティエリア外へのマイナスのボールが出されると、ここでも寄せ切れず、ほぼフリーの状態シュートを許す。それが絵にかいたようなファインシュートとなり、試合開始 2 分ほどで早すぎる失点。重要な試合にもかかわらず、最悪の入り。そもそも、**①自分のマッチアップの相手をあいまいにしているためか、ボールを奪う準備ができていない**。だから何となく下がるのみで、MF が DF ラインに吸収され、ミドルシューターに反応できていない。そしてボールを奪う準備ができていないという事態と同じことだが、**②最初に誰がボールにフレッシャーをかけるか、決定されていない**。「自分が行く」「お前が行け」という声がかからない。いや、それも遅く、「5 に出されたら・・・行けよ」と事前に連携の声があって当然だが、ボールを見ることで精いっぱい、そこまで頭が回らない (要はボールウォッチャーになっている)。結局、ボールにチャレンジする 1st ディフェンダーとカバリングに備える 2nd ディフェンダーという役割分担ができないために、**③複数人がボールにつられ、一気に剥がされ、「人はいるが相手に自由を与える」状態に**。指導不足により、守備の基本が身につけていない。ただ、失点後は山商のシュートが枠を捉えられないこともあり、何とか追加点を奪われないでいると、前半終盤、FW を走らせ前に出てきた GK にシュートが当たりこぼれた浮き球を **MF ヨシタカが山なりシュート。スッポリとゴールに収まり、1・1 の同点に**。あまりにゆっくりゴールに入ったためか、保護者応援席が湧くまでタイムラグのあるシュートが決まる。そのまま前半終了。

前半気を持たせ、後半落ちるのが最近の流れだが・・・後半の入りは良くない時

間が続いたものの、中盤ははっきりと山東ペースに。高い位置で起点を作ることができ、久々に見る「分厚い攻撃」。**UB が左サイドを抜け出す決定機が二度続いたその二度目、ニアサイドを鋭く抜けるシュートにより、逆転に成功。**時計を見ると後半 26 分。「18 分（という時間）、すぐ過ぎてくれないかな〜」などと願望を述べるとベンチの反応も明るい。やはり逆転弾に明るくならないベンチはない。「しかし、このスコアのままではいかないだろうな〜」と付け加えてしまった顧問の言霊が災いしたか。その後、最悪の展開に……。後半 28 分、要は逆転弾の 2 分後、最終ラインで不安定なプレーが続き、そしてゴール前で先ほどの寄せの甘さが露呈し、ゴール前なのにシュートを呆気なく許し、**同点。**そしてその後も中盤の寄せが甘いためラストパスを許し、山商 FW の裏への走りに山東 DF もアップアップになり、逆転間近の雰囲気濃厚。勝ち点 3 が一時は頭をかすめた顧問も、勝ち点 1 でも御の字の現実的な気持ちになってきた。「このままではやられそう」という予想は、結局現実のものに。左サイドを破られセンターリングを許すと、ニアサイドにて体を相手に預けながらシュートを放つ山商 FW？の技ありゴールが決まり、**逆転**される。その後も危ないシーンの数々でしたが、そのままの**スコア 2-3 で敗戦。**接戦に強いチームが本物だとすれば、接戦に弱いチームは偽物ということ。「惜しかったが良くやった」とは言いたくない、悔しい敗戦を喫する。

17 日は同じく上山明新館高校にて山形中央との対戦。先週の地区新人にて PK 合戦まで行く熱戦をただけに、山形中央からすれば雪辱戦になる。自分たちが格上であることをピッチで証明する、という気迫に満ち満ちている。そういう雰囲気を試合前に選手に伝え、「熱く戦え」と指示しましたが……。試合が開始されると、すぐさま右サイドの内側を突破され簡単にセンターリングを許し、ドフリーのシュートによりネットを揺らされる。開始 1 分か。山東は逆風という逆境もあったが、（スピードのある選手に対して）準備ができていないという上述の悪弊とともに、**はっきり言って山形中央の怒気に気圧されビビって体を張れず軽いプレーをしてしまい、立て続けにゴールを許す。**山形中央の選手はゴールするとボールを持って走ってキックオフの場所まで戻る。取りも取ったり、というか、取られも取られたり、**前半だけで 9 失点。**実力差があるのは認めるものの、この点数はやられ過ぎ。

「実力の差を点数の差にしない粘り強い戦い」を身上にしてきた山東にとり、不甲斐ない戦い。その中でも**コテッチャンの個人突破から 1 点をもぎ取った**のは評価できますが、前半の見せ場はこれだけ。後半も散発的にゴールに迫るものの、分厚く攻めることができないまま失点を重ね、結局後半 5 失点で、**計 1-14 の歴史的な大敗。**攻守にわたりスピーディーな山形中央相手に、攻守にわたり次のプレーのイメージが感じられない、言うなればボサツとしたプレーを続ければ、そりゃやられますよ。**Y リーグの歴史でも、近年の山東の歴史でも、過去最多失点。**応援に来て下さった保護者に申し訳ないし、伝統を築き上げてきた諸先輩方に申し訳ない一言。

正直、次も応援に足を運んで下さい、とは言いづらい試合でしたが、チームが苦しい状況の時こそ、熱い声援をお願いします。次節はいよいよ裏天王山。当初の予定と試合会場・開始時間ともに変更されておりますので、ご確認ください。

9月22日(土) Y1 モンテB戦 9:30~ @天童市スポーツセンター

9月16日(日)の県新人・選手権激励会の様子は、次号にてご報告いたします。